

平成22年度 第2回三条市子ども未来委員会会議録（概要）	
日 時	平成22年8月27日（金）10時00分～11時30分
会 場	市役所栄庁舎2階 201会議室
出席者	<p>検討委員：橘委員長、佐久間副委員長、佐藤委員、小林（吾）委員、藤坂委員、齋藤委員、古川委員、荒木委員、田中委員、近藤委員、高橋委員、藤田委員、小林（尚）委員</p> <p>事務局：久住子育て支援課長、蝶名林課長補佐、五十嵐係長、知野主任</p> <p>報道機関：三条新聞</p> <p>傍聴者：なし</p>
委 員 会 内 容	
橘委員長	<p>これから平成22年度第2回三条市子ども未来委員会を開催する。</p> <p>先回の会議は、7月7日で、子ども未来委員会の概要や今後のスケジュール、すまいる子どもプランについての説明があった。</p> <p>今回は、すまいる子どもプランにおける今年度の実施計画と「子育て応援宣言運動」の実施案について様々な御意見をいただきたい。概ね11時30分頃終了したい。貴重な時間なので、有意義に議事を進めたい。御協力願います。出席者数等について事務局からお願いしたい。</p>
蝶名林補佐	<p>本日の出席者数については、13名の全委員から出席いただいている。</p> <p><b>【会議資料の確認、追加配布資料の確認】</b></p>
橘委員長	<p>では、議題に入りたい。</p> <p>議題（1）すまいる子どもプランにおける実施計画（案）について、事務局より説明願いたい。</p>
久住課長	<p><b>【久住課長から議題(1)について説明】</b></p>
橘委員長	<p>今の説明について、質疑があればお願いしたい。</p> <p>P2継続事業No.3、入学時健診時、30分程度の子育てについての講演会をどうして避けてしまうのか。小学校入学時の教育が家庭に入っていく方策はないのか、と常々考えているのだが。保護者のモチベーションが上がらない理由は何なのか不明な点である。</p>
久住課長	<p>三条市では、45分間の話（講座）としている。参加された保護者には、アンケートを実施しているが、80～90%の満足度がある。問題が表面化してくるのは中学校の頃だと思われるため、昨年から中学校での講座を始めた。子どもとの関係を再確認し、サポートする親の立ち位置を考えると</p>

	<p>内容で、感動的な話であった。聞いてさえ頂ければ、考えるきっかけとしてとてもいいのだが、出て来ないことには、どうしようもない。</p>
橘委員長	<p>一般の方に開かれているもの（講演会・健診など）の利用率が低い。事業仕分けでないが、効率を考えると、予算を切られる可能性もある。せっかくのいい機会なのに、もったいないと思う。</p>
久住課長	<p>行政は、宣伝・広報が下手だと言われるが、どうやっていったらいいのか御意見をいただきたいところ。行政評価という制度もある。参加率が低いことを考えて、出前講座を計画したり、実施時間帯を工夫している。</p>
佐藤委員	<p>P 7 新規・拡充事業No.2「発達支援保育（学童保育）の充実」に「研修会の実施」とあるが、放課後教室のメンバー（学童に関わるスタッフ）にも参加機会を与えてほしい。対応困難な子どもが増えているので、少しでも勉強させてほしい。</p>
久住課長	<p>了解です。拡充を図るという意味でも、合同で開催したいと考えている。</p>
藤田委員	<p>P 5 新規・拡充事業No.1、子育てポータルサイトへのアクセス数が少ないということだが、どのような内容になっているのか。</p>
久住課長	<p>この事業は、おやこ劇場に委託してやってもらっているので、近藤委員から説明してもらいたい。</p>
近藤委員	<p>昨年からはじめた事業で、まだ構築しながら整備中という状況である。たくさんの三条市の情報が載っているが、遊び場、小学校、幼稚園、保育園など、特集記事は月に1～2回更新しているが、それ以外はほとんど変わらない。参加していただくこともできるのだが、ほとんど参加はない。登録すれば、「おしゃべり広場」などで意見交換もできるのだが、そこが動いていかない。そうするにはどうしたらいいか検討中である。一度見れば、もういいというふうになるのかもしれない。</p>
橘委員長	<p>自主的な書き込みが少ないのか。</p>
近藤委員	<p>書き込み自体が少ないというのが現状である。</p>
橘委員長	<p>ひとことリレー形式にすると増えていくのではないかと。</p>
近藤委員	<p>セキュリティの関係で、登録するのが難しいということもある。入口が入りにくいのかもかもしれない。</p>

久住課長	「子育て」だけのポータルサイトではない。最初の画面には、商店街・高齢者などのメニューがあって、その中に「子育て」がある。国の補助を受けて、全体を三条市のポータルサイトにしたので、分かりにくくなっている。
近藤委員	入口がいくつもあるので、分かりにくくなっているのかもしれない。
藤田委員	同じ悩みを持つ、単身赴任者の奥様のサイトとか、すごく活発で勉強になる。若いお母さん方が活発に参加できるサイトになっているといいと思う。
橘委員長	使い方によっては、面白いと思うのだが。
久住課長	項目別になっていると、分かりやすいかもしれない。
小林(吾)委員	<p>いろいろいいことをされているのは分かるが、周知されていないということが一番の問題。私自身、三条地域ポータルサイトなんていうのがあることを知らないの、そこから（情報・意見等が）降りてくることなど期待できないと思う。私たちも会社のHPを作る時には、検索サイトでいかに引っ掛かりやすいか、という観点しかない。会社名で調べてくれる人などいない。</p> <p>「子育て」・「三条」のキーワードで検索している人がこの1か月で何人いるか、すぐ調べられる。どういうキーワードが子育て系で流行っているのか、という情報を提供する企業も三条にあるし、比較的安価で指導もしてもらえ。うまく検索サイトから引っ張り込むような仕掛けを、多少お金をかけてでも、やってみたらどうか。あとは、利用者のクチコミを期待して、チラシ・メモ書きを渡して知人に広めてもらうとか。</p>
橘委員長	では、次に、議題（2）について、事務局より説明願いたい。
久住課長	<b>【久住課長から議題(2)について説明】</b>
橘委員長	今の説明について、質疑があればお願いしたい。 これが、今年の新しい事業になるのか。
久住課長	<p>「安心子ども基金」の補助金を活用し、三条市が実施する事業。</p> <p>H20年度に、この委員会で話し合った時に、市が条例制定をしたり、宣言をしたりして市民に呼び掛けしていく、ということが他市でも実施されていたが、その時にPRしても、どうなのか、という意見が出ていた。その意見を踏まえて、現在、実際にやっていただいていることを、市民の方から宣言していただくという方式はどうか、と考えた。</p>
小林(吾)委員	女性が働きやすい環境という部分で、やっている企業はある。

久住課長	県が、ハッピーパートナー企業制度として実施している。
小林(吾)委員	それ自体、どこでPRされているのか。だれも分からないのではないか。
久住課長	県のHPなどで出ている。
小林(吾)委員	そもそも、それ（応援宣言運動）をやっただれが見るのか。どこに周知されるのか。
久住課長	市の広報紙やHP、すまいるランドに掲出したりすることを考えている。
橘委員長	イメージしにくい。応援宣言項目を出してもらって、それをHPに載せたり、チラシにしたりするのか。
久住課長	たとえば、個人で宣言してもらうのは、その宣言が本当に実行できたかどうかということを追いかけたり、評価したり、ということはない。
小林(尚)委員	これを実施することによって、予測される期待・効果やねらいは何か。
久住課長	団体や地域であれば、ボランティア精神を持つ、子育てに優しい人々が増えてくれること。個人個人の行動からの草の根運動と考えている。 ユニバーサルデザインなどと同様に、優しい社会を目指している。
橘委員長	「応援宣言運動をやっていますよ」ということを周知していくことなのか。意識を高めていくことが目的なのか、運動を実施することが目的なのか。応援宣言運動をすることの何に予算がついたのか。
久住課長	運動を展開していくことに対して予算がついた。チラシ作成、ノボリを作る、実施企業にステッカーを配るとか、PRをするという運動全体に対して補助金がついた。
橘委員長	NPOや企業が何かするから補助する、というものなのか。
久住課長	そういうものではない。
橘委員長	PRのための費用として予算がついた、ということか。
久住課長	そういうことである。
佐藤委員	啓蒙活動として理解した。

藤坂委員	看板を立てる等の予算はあるのか。
久住課長	具体的には、看板や周知のための講演会を実施するなど、運動における周知・PRに使う予算を計上している。
佐藤委員	総合サポートシステムも子育て応援宣言運動の一環なのか。
久住課長	そこに関わっていく人にとっては、それも応援宣言のひとつである。
藤田委員	子育て応援宣言という、個人の行動・意識・気持ちが重要になってくる。市が勝手にやっていること、と捉えられるのではなく、個人の気持ちの盛り上がりが必要だと思う。
橘委員長	予算は、どの位ついたのか。具体的なイメージが浮かんでこない。こども未来委員会では、どういう討論をするべきなのか。
久住課長	こういう運動を実施することに対しての御意見をいただきたい、と考えている。意見聴取団体からは、もっと具体的な内容（応援宣言項目等）をお示しして、御意見を伺うようにしたい。 予算は、全体で1,873千円。
藤田委員	安直に宣伝するなら、テレビコマーシャルなどを出せばいいと思う。
藤坂委員	市民一人ひとりが承知しているかが重要。市から配られる広報を皆が見ているのかが問題。
橘委員長	この運動をすすめるにあたって、積極的な広報をするということか。
齋藤委員	個人・企業・団体から自主的にできることを宣言してもらって、輪が広がっていく、それが大事なことだと思う。
小林(尚)委員	分かりやすいのは、「こども110番の家」の看板があるが、ああいうイメージで広がっていけば、具体的なものから展開していくと思う。
橘委員長	いろいろな意見が出てきました。今後また具体的に検討していただき、情報等を聞かせていただきたい。御意見ありがとうございました。 その他について、事務局からお願いします。
久住課長	本日は、様々な御意見をいただきありがとうございました。今日の御意見を参考にし、今年度の事業を実施していきたいと考えている。応援宣言運動

	<p>については、また委員の皆様から御意見をいただきたいが、その都度会議を開催するのではなく、郵送やメールでの意見聴取としたい。</p> <p>次回の会議は、年度末を予定しているが、具体的な日程は連絡させていただくのでお願いします。</p>
藤坂委員	<p>できれば、2月の方が有難い。3月は何かと忙しい。</p>
佐久間副委員長	<p>できれば、もう少し早く日程を知らせてほしい。</p>
橘委員長	<p>では、これで第2回会議を終わりたい。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;"><b>(11時30分 終了)</b></p>